

四 町内5校で上野焼授業 四百年以上の伝統の息吹学ぶ作陶体験

郷土の伝統を自ら体験して学ぶ上野焼作陶授業が、10月から11月末にかけて町内5校で開かれました。児童たちは、作業に入る前に上野焼の基礎知識を学習。自分たちが生活するこの地で、四百年以上も息づいてきた伝統へ思いをはせながら、子どもたち独自の感性を生かした作品づくりに熱中していました。



↑市場小6年生58人は、上野焼作家6人から直接指導を受けて絵付けを体験。

↓気迫こもる「どっこいしょ」の声が青空に響いた5年生の「ソーラン節」演舞。



我 伊方小「体育学習発表会」 我が子の成長に惜しめない拍手と喝采

伊方小は10月23日、新型コロナの影響で中止された運動会の代わりに、体育学習の成果発表の場として「体育学習発表会」を行いました。全校児童280人が徒競走やダンスなど、自分が持つすべての力を振り絞り、競技や演舞を披露。成長した子どもたちの姿に、保護者から割れんばかりの声援が送られていました。

↓空港利用者へ、上野焼の魅力と展示を紹介する斉藤久美子福岡空港支店長。



九州の玄関口・福岡空港で上野焼を展示 JAL福岡空港支店へ上野焼贈呈

上野焼協同組合は、北九州空港に引き続き、福岡空港で上野焼展示を始めるに先立ち、11月2日にJAL福岡空港支店へ上野焼12点を寄贈しました。贈呈式終了後は、連休で活況を見せるJALチェックインカウンター前で上野焼をPR。JALと窯元と町による協働で空港利用者へ上野焼の魅力を広めました。

弁城小1・2年生が芋掘り体験 弁城小産のイモで秋の实りを堪能

弁城小1・2年生32人は、10月28日に地域住民の協力を得て、イモ掘りを体験しました。誰よりも大きなイモを掘ろうと子どもたちは、小さな両手で掘り進め、大箱5個分のイモを収穫。穫れたてのイモをPTAがほくほくの「焼き芋」に調理し、新型コロナ対策を徹底しながら全校で、秋の味覚に舌鼓を打ちました。



↑豊かな土壌で育まれたイモは、子どもたちの顔と変わらない大きさの良サイズ。

↓搭乗手続で交わされる一般的な英語のやり取りを学び、牛島友紀子講師を相手に英語の実践練習。



未来 日本航空協力のキャリア教育 未来の自分重ね合わせた授業

子どもたちが将来の可能性を見出すキャリア授業が日本航空の協力の元、金田義務教育学校で行われました。5・6年生156人は、11月13・19日にグラウンドスタッフの英語授業。7・8年生147人は、18・25日にキャビンアテンダントの職業授業を体験。普段受けることができない特別授業に、子どもたちは将来の姿を重ね合わせ貴重な話に耳を傾けていました。

古 田川市郡8市町村で卑弥呼連邦樹立を宣言 代史ロマンをキーワードに広域観光

田川地区8市町村の首長らによる「卑弥呼連邦樹立宣言」が11月1日に田川市で行われました。きっかけは赤村で見つかった約450mの前方後円墳に見える地形。日本最大級の古墳に匹敵する規模から、「卑弥呼の墓では」との声が上がりました。今後、卑弥呼をキーワードにした広域観光ルート化などが企画されています。



↑卑弥呼連邦のトレードマークを持つ8市町村の首長たち(田川文化センター)

↓強烈なアタックで教師陣から得点したものの、あと一歩力およばず惜敗。



最 方城中クラスマッチ 最初で最後の全校行事に満身のアタック

方城中は、今年度最初にして最後の全校行事となるクラスマッチを10月12日に行いました。全学年が入り交じるバレーチームを16組編成し、白熱の30試合を行った後、3年生のみのチームと方城中教師陣との特別マッチが実現。お互い一歩も譲らない展開に、試合を見守った下級生から熱いエールが送られました。